

序

AJI Books シリーズの中の 1 冊として本書が上梓されることは、刊行者である立命館大学アジア・日本研究所にとって大変喜ばしいことです。編者の Dr. 靳春雨と共同執筆者の皆さまにも、お慶びを申し上げます。

このシリーズは、これまで主として英語で刊行をおこなってきました。国際的な研究成果の発信、あるいは研究活動のグローバルな告知という、英語でおこなうことが昨今では、当たり前になっています。確かに、事実上の国際共通語となっている英語を使うことは便利ではありますが、「グローバル」ということは、インターネットの実態を見るまでもなく、実際には多言語ということでもあります。アジア・日本研究所では、日本語とアジア諸言語についても、機会があればいつでも、おいに活用したいと思っています。

その意味で、日中韓の 3 言語を用いた研究集会と、それを基にした本書が 3 言語で刊行されることは、研究所の趣旨にも合致しており、とても嬉しいことです。2020 年に開催された「日中韓詞学文化交流研究会」では、日本、中国大陆と台湾・香港、韓国から素晴らしい先生方にご参加いただき、非常に興味深い研究報告と討議がおこなわれました。

アジア・日本研究所は、アジアと日本に関わる研究をおこなう研究機関として、2015 年 12 月に設立されました。研究所としては、まだ新しい部類に入ります。「アジア・日本研究」とは何かというと、英語では Asia-Japan Research というふうに、アジアと日本をダッシュで結んでいます。Asia and Japan ではないわけです。これは、日本がアジアの一部であることを前提にアジア研究をすることを意味しています。

アジアと日本に関わるさまざまなテーマを研究するため、いろいろな分野を横断する学際的な研究を重視しています。本書のテーマのように、文学、人文学、人文科学のもっとも重要な部分を扱う研究もあります。本書では、中国の宋代（960～1279 年）の代表的な文学である詞を中心とした研究をおこない、「詞」を通じた日中韓の文化交流

について貴重な知見を明らかにしています。

アジア・日本研究所には、もう1つ重要な要素として、若手研究者の育成、つまり新しい世代の研究者が研究を発展させていくのをサポートするという使命があります。本書の編者である Dr. 靳春雨も、そのような若手研究者の1人として、研究所の若手育成プログラムを活用して、活発な研究活動と研究成果の発信をおこなっています。

アジア・日本研究の発展のために、あらためて、研究所の活動や AJI Books シリーズへのご支援とご鞭撻を読者の皆さまにお願いしたいと思います。

立命館大学アジア・日本研究所長

小杉 泰